



## 在宅での 輸血治療について

患者さんの中には、体の中で必要な赤血球が作られなくなったり、お腹を切るほどではないけれども内視鏡手術でも出血を止めることが難しく、

微細な出血が続いてし



**松原 清二** 医師  
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長  
総合内科専門医・循環器内科医  
・日本循環器学会専門医  
・日本内科学会認定医  
・認知症サポート医

ます。輸血をすることで、息

まっつて必要な赤血球が不足する貧血の方がいます。し、以前の日常を取り戻すことができません。実際、たまにはご家族に連れられて公園に行つて世間話に興じたり—といった日々の生活は楽しんで送りますが、貧血が進むと体がだるくなり、少し歩いただけで息が上がることがあります。こういった場合は、体の中に赤血球を補うために輸血を行います。ただ、在宅の場合、輸血は他人の血液を使用することになるので、アレルギー反応が起きたり、蕁麻疹が出たり、血圧が下がったりすることも稀にあり、急な対応を求められることがあるなど手間や備えが非常にかかるので、通常は入院で行なっていました。しかし、入院が頻回になると、入院を嫌がるご本人、連れていくのが大

変なご家族の負担を目的にしたりします。そうしたなか、「慢性的に輸血が必要な人にも在宅医療で応えたい」という思いが、私自身募るようになり、今年4月から在宅輸血治療を始めました。今後も在宅医療でできることを常に模索し、通院困難な方に良質な医療を提供したいと思っています。

**☎ 042-439-1250**  
西東京市東町 4-14-18-2F  
(訪問中のため不在が多い)  
■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00  
■定休日 : 土日 (祝日は診療)  
■訪問地域 : 西東京市、東久留米、新座、練馬の一部

↑ 診療相談はこちらから